

3 木村さんの孝順では、言葉の変化について学ぶために、みんなが「資料1」を読みました。そして、「資料1」を総んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。「資料1」をよく読んであとの問いに答えましょう。

予想されます。また、「資料1」の言葉の形や意味が「通用しない」例や「使い方が変わる」例をイメージすることがやや難しかったと考えます。

<今後の取組>

今後も自分の考えを文章にまとめる経験をあらゆる教科で積んでいくことを継続していきます。加えて、他者の考えの要旨を「つまり、～ということですね。」などとまとめる経験を積ませよう今後の授業でも工夫していきます。また、文章中や選択肢の文で、考えや事実が示されている部分について「例えば」と自分の知識や経験と照らし、書かれている考えや事実が示す内容をイメージすることも声掛けをしていきます。

【算数】

全国と比べて正答率が高かった問題 (松野尾小正答率 66.7 全国正答率 30.9)

○五角形の面積を求めるために二つの図形に分割し、それぞれの図形の面積の求め方を書く問題(図形)

これは、多角形を三角形や四角形に分割して求積する方法を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題です。基本的な図形の面積を求める公式が示されていたことや、どのように分けるかが二つ示されていたことも、正答率が上がった要因の一つと考えられます。

全国と比べて正答率が低かった問題

▲2022年の全国のブロッコリーの出荷量が2002年の出荷量の約何倍かを棒グラフから読み取って選ぶ問題(数と計算, データの活用)

(松野尾小正答率 58.3 全国正答率 78.7)

正答は「2(倍)」ですが、割合ではなく出荷量の増加分「8(万t)」と解答した誤答が見られました(図2)。

▲数直線上に示された数を分数で書く問題(数と計算)

(松野尾小正答率 16.7 全国正答率 35)

図3

(3) 次の数直線のア、イの目盛りが表す数を分数で書きましょう。

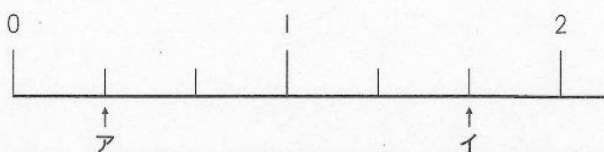
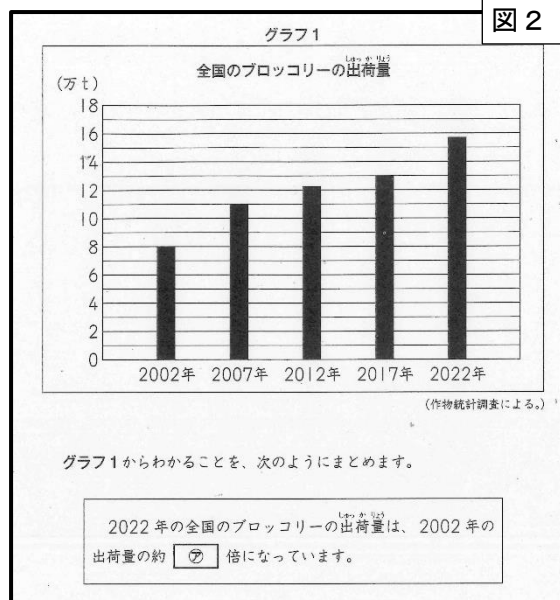


図2



これは、数直線上で1の目盛りに着目し、分数を単位分数(1を等分割した1つ分)のいくつ分と捉えられるかを問う問題です(図3)。ア $1/6$ 、イ $5/6$ という誤答や、ア $1/3$ は正答でもイが違うという誤答が見られました。分数は「全体を1として見たときの相対的な割合」という一面的な捉え方になっていることが伺えます。

<今後の取組>

ただ答えを求めるのではなく、意味や場面理解も大切にし、友達に説明をしたり聞いたりする時間を今後も大切にしていきます。分数と同じように、 $30+50$ は10を単位量に、 $0.3+0.5$ は0.1を単位量とするなど、単位のいくつ分で考える見方を大切にしていきます。

【理科】

全国と比べて正答率が高かった問題 (松野尾小正答率 75 全国正答率 62)

○ヘチマの種子が発芽する条件を調べる実験において、条件を制御した解決の方法を選ぶ問題
実際に丁寧に実験をしたことのある内容だったことや、例が二つ示されていることなどが、正答率が上がった要因と考えられます。

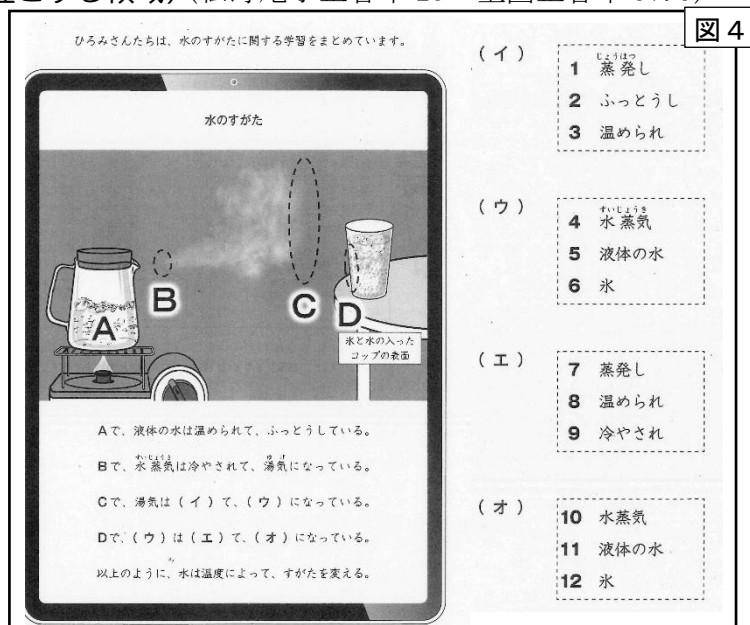
全国と比べて正答率が低かった問題

▲水の結露について、温度によって水の状態が変化するという知識と関連付け、適切に説明しているものを選ぶ問題(「粒子」、「地球」を柱とする領域)(松野尾小正答率 25 全国正答率 57.5)

「A水が沸騰する→B水蒸気は冷やされて湯気になる→C湯気が蒸発して水蒸気になる→D水蒸気は氷水の入ったコップの表面で冷やされて液体の水になっている。」という水のすがたについてまとめる問題です(図4)。特に下線部の「冷やされて」を「温められ」と答えている誤答が見られました。

<今後の取組>

今後も、既習と関連付けながら予想と実験、考察を丁寧に行っていきます。水蒸気のように目に見えない現象についても、イメージ図やキーワードで整理してまとめたり、自分の言葉で説明したりすることも大切にしていきます。



2 児童質問紙 回答の傾向と分析 ()は肯定的評価の割合

○学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。(81.7%)

○授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり生活したりすることができる。(83.4%)

これに加えて、ICTの活用に関する質問は、いずれも肯定的評価が高かったです。

▲読書は好き。(58.3%)

▲新聞を読んでいる。(8.3%)

<今後の取組>

タブレットを効果的に活用しながら、学習を進めていることは今後も継続していきます。学習した内容を次の学習につなげて考えているつぶやきやノートの内容を取り上げるなどし、学習した振り返りを次につなげるとはどのようなことなのか、学んだことを実生活に生かすとはどのようなことか、具体例を示して共有していきます。

読書や新聞については、図書館司書とも連携しながら、もっと子どもたちが本や新聞に親しめるように、こまめに読書の時間を設けたり、楽しい図書館の掲示やイベントなどをしたりと工夫をしています。新聞については、タブレット内に「ふむスタ」という新潟日報が児童向けに提供しているサイトも活用しているので、今後も継続していきます。

学校では、『学ぶことに興味や関心を持ち、進んで取り組む子どもの育成』を研究主題にして、特に個別最適な学びを取り入れた授業づくりについて、校内研修を行っています。子どもたち自身が学習方法を選択したり、課題や学習する内容を選択したりする授業も取り入れながら、子どもたちがより主体的に学ぶ授業づくりに努めています。

研究主任 小林 夕紀